

令和3年度

(令和3年4月1日より令和4年3月31日まで)

# 事業報告

公益財団法人 高松宮妃癌研究基金

東京都港区高輪一丁目14番15号102

# 目次

第1章 概況	1
第2章 事業の状況	
1. 研究助成金の贈呈	1
2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈	2
3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催	2
3-2. 国際シンポジウム開催の助成	3
4. 国際講演会の開催	3
5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成	4
6. 機関誌「CANCER」の発刊	4
第3章 管理事項	
1. 会議等に関する事項	
(1) 令和3年度第1回学術委員会	5
(2) 令和3年度第1回理事会 (通常)	5
(3) 令和3年度第1回評議員会 (定時)	5
(4) 令和3年度第2回理事会 (臨時)	6
(5) 令和3年度第3回理事会 (臨時)	6
(6) 令和3年度第2回評議員会 (臨時)	6
(7) 令和3年度第2回学術委員会	7
(8) 令和3年度第4回理事会 (臨時)	8
(9) 令和3年度第5回理事会 (通常)	8
(10) 令和3年度第3回評議員会 (臨時)	8
2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項	9
3. 内閣府からの連絡事項等	9
第4章 受取寄附金に関する事項	9
第5章 附属明細書	
表1 令和3年度研究助成金受領者名簿	10
表2 令和3年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿	13

## 第1章 概況

当事業年度は、期間の大半において新型コロナウイルス感染拡大に対応した緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置が適用されることとなり、事業運営は多大な影響を受けた。

当財団は、設立の趣旨である故高松宮妃殿下の悲願「がん撲滅」を実現するため、後述の公益目的事業を実施してきている。これら事業のうち、海外から講演者を招聘し、多数のがん研究者が一堂に会する国際シンポジウム、ならびに国際講演会の開催は前年度に続き延期のやむなきに至った。事業の中心に位置づけられるがん研究者への研究助成金の贈呈と高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈は計画通り実施した。しかし、総裁常陸宮殿下ご臨席のもとで、これらの栄誉を称える贈呈式は、前年度に引き続き延期せざるを得ない結果となった。延期になった国際シンポジウム開催に替え、当財団の設立時から偉大な貢献を果たされた故杉村隆先生の追悼記念講演会を開催した。杉村先生の世界及び日本のがん研究に果たされた業績、並びに杉村イズムというべき学問に対する姿勢を若い研究者に伝えることを主旨とし、研究助成金贈呈事業の一環と位置付け、令和元年度、令和2年度の研究助成金受領者を主体に、過去の学術賞受賞者、例年の国際シンポジウムに討論者として参加している研究者等を対象とした講演会とした。開催にあたっては、新型コロナウイルス感染のリスクを最小限とすべく感染対策を徹底するとともに、オンライン配信を併用したハイブリッド方式とした。

財団の管理、運営面ではウイルス感染リスク回避を図り、テレワーク勤務や時差通勤の体制を継続した。

当事業年度の収支は、経常収益については、主要な収入の株式配当及び債券利息収入が合計170,142千円で、前事業年度比5.5%増（前年度161,334千円）であった。寄附金収入は、複数の個人の方からの遺贈（合計26,804千円）が大きく寄与し、指定正味財産増減の部の受取寄附金は前事業年度比47.5%増の56,720千円（前年度38,460千円）を計上した。しかし、国際シンポジウムの開催延期等による事業費の減少に伴い公益事業収支部門は小幅の赤字にとどまる状況となったため、受取寄附金の振替は実施せず、指定正味財産に計上される株式配当金の一部のみ振替を実施した。その結果、当事業年度の経常収益総額は、前事業年度比5.4%増の170,156千円（前年度161,368千円）となった。

経常費用については、研究助成金の贈呈以下の当年度の事業を実施し、国際シンポジウムと国際講演会の開催の再延期の結果を含め、経常費用総額は前事業年度比7.6%増の168,417千円（前年度156,561千円）となった。

以上の結果、当事業年度の一般正味財産の当期増減額は、1,739千円の黒字（前年度4,807千円の黒字）となった。

## 第2章 事業の状況

### 1. 研究助成金の贈呈（定款第4条第1項第1号）（公益目的事業1）

当事業年度の応募件数は239件であり、この中から43件が採択された。受領者の氏名、研究題目等は、第5章・附属明細書・表1に記載のとおりである。1件当たり200万円を贈呈した。

選考は令和3年12月2日（木）開催の学術委員会において行なわれ、12月15日（水）、理事会の承認を得た。

贈呈式は、当初令和4年2月22日(火)、パレスホテル東京(東京都千代田区)において挙行する予定であったが、ウイルス感染の収束が見通せない状況下、延期を決定した。

当事業の一環として、延期になった国際シンポジウム開催に替え、故杉村隆先生の追悼記念講演会を開催した。杉村先生のがん研究に果たされた業績、並びに杉村イズムというべき学問に対する姿勢を若い研究者に伝えることを主旨とし、令和元年度、令和2年度の研究助成金受領者を主体に、過去の学術賞受賞者、例年の国際シンポジウムに討論者として参加している研究者等を対象とした講演会とした。

講演会：杉村隆先生追悼記念講演会  
表題：杉村隆先生の足跡—杉村先生との研究—  
講演者：若林 敬二 博士(元国立がんセンター研究所所長、静岡県立大学特任教授)  
高山 昭三 博士(元国立がんセンター研究所所長)  
西村 暹 博士(元国立がんセンター研究所部長)  
長尾美奈子 博士(元国立がんセンター研究所部長)  
三輪 正直 博士(元国立がんセンター研究所副所長、長浜バイオ大学客員教授)  
下遠野邦忠 博士(元国立がんセンター研究所部長、国立国際医療研究センター特任部長)  
開催日：令和3年11月16日(火)  
会場：パレスホテル東京  
組織委員長：若林 敬二 博士(当財団学術委員、静岡県立大学特任教授)  
参加者：会場 約90名 オンライン 約80名

## 2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈(定款第4条第1項第2号)(公益目的事業2)

当事業年度の推薦件数は10件10名であり、この中から2件2名が選考された。1件当たり本賞の賞状と副賞500万円を贈呈した。  
受賞者の氏名、研究業績等は、第5章・附属明細書・表2に記載のとおりである。  
学術委員会における受賞者の選考及び理事会の承認は、上記1.の研究助成金受領者の選考と併せて行われた。贈呈式は延期を決定した。

### 3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催 (定款第4条第1項第3号、第4号)(公益目的事業3)

第51回高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムを次のとおり開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、次年度への再延期を決定した。

#### (1) 国際シンポジウム

主 題：がんの発生・進展における環境インパクトの新知見：原因究明から切り拓く最適予防  
会 期：令和3年11月16日(火)～18日(木)  
会 場：パレスホテル東京(東京都千代田区)

組織委員長：津田 洋幸 博士（名古屋市立大学特任教授）

組織委員：Allan Balmain 博士

（カリフォルニア大学サンフランシスコ校ヘレン・ディラー・ファミリー  
総合がんセンター所長）

石川 冬木 博士（京都大学大学院教授）

中釜 齊 博士（国立がん研究センター理事長）

招待演者：海外から 20 名及び国内から 11 名を予定

討論者：約 200 名

(2) 中原記念講演賞

本シンポジウムの特別セッションにおいて、中原記念講演を実施する。

当年度の講演者は、Arthur P. Grollman 博士（ストーニーブルック大学薬理  
学部特別教授）を予定。

3-2. 国際シンポジウム開催の助成

（定款第 4 条第 1 項第 3 号、第 4 号）（公益目的事業 3）

下記の学会が実施した国際シンポジウムに対し助成を行った。

第 80 回日本癌学会学術総会における JCA-AACR Joint Symposia

会 期：令和 3 年 9 月 30 日（木）～10 月 2 日（土）

会 場：パシフィコ横浜

助成額：2 百万円

4. 国際講演会の開催（定款第 4 条第 1 項第 3 号、第 4 号）（公益目的事業 4）

がんに関する講演会及び研究会開催の一つとして、下記の研究者を候補とする国際講演会開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、次年度への延期を決定した。

第 1 候補

Tyler Jacks 博士

マサチューセッツ工科大学コッホ統合がん研究所所長

令和 2 年（2020 年）第 14 回 AACR 高松宮妃記念講演賞（アメリカ）

第 2 候補

Aviv Regev 博士

ジェネンテック社副社長（アメリカ）

第 3 候補

Joan Massagué 博士

メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター

スローン・ケタリング研究所所長

平成 29 年（2017 年）第 48 回国際シンポジウム中原記念講演（アメリカ）

## 5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成

(定款第4条第1項第3号、第4号) (公益目的事業5)

新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、バーチャルミーティングでの開催となった米国癌学会 (AACR) の 2021 年度年会において、第 15 回 AACR 高松宮妃記念講演が行われた。講演者の選定は、WEB 会議方式による選考委員会において行われ、記念講演も、ビデオメッセージ形式での開催となった。

講演者 : Mina J. Bissell 博士  
ローレンス・バークレー研究所  
Distinguished Senior Scientist  
演題 : Why don't we get more cancer?  
講演日 : 令和3年6月20日 (日)  
会場 : アメリカ・バーチャルミーティング

まず、関谷剛男理事長から故高松宮妃殿下の世界のがん研究に対する長年にわたるご支援並びに当財団の沿革・事業内容等についてビデオメッセージの後、バーチャル講演が行われた。

Bissell 博士に対し記念の盾及び副賞 1 万ドルを贈呈した。

## 6. 機関誌「CANCER」の発刊 (定款第4条第1項第5号)

令和3年度 (第52巻) 機関誌 CANCER を次のとおり発刊した。

発行日 : 令和3年7月25日 (日)  
発行部数 : 700部

## 第3章 管理事項

### 1. 会議等に関する事項

(1) 令和3年度第1回学術委員会

開催日：令和3年4月22日(木)

開催場所：オンライン会議 (ZOOM)

出席者：学術委員9名 (総数10名)

理事長

議案：① 第51回国際シンポジウムの再延期について

② 杉村隆先生追悼記念講演会について

審議結果：① 1年再延期につき異議なく全員賛成した。

② 組織委員長として若林委員が推挙され、本人同意の上、全員が賛成した。

(2) 令和3年度第1回理事会 (通常)

開催日：令和3年6月2日(水)

開催場所：パレスホテル東京 (東京都千代田区丸の内1-1-1)

出席者：理事8名(総数9名)・監事2名(総数2名)・顧問2名(総数4名)

議案：① 令和2年度事業報告及び決算について

② 第51回国際シンポジウムの開催延期および杉村隆先生追悼記念講演会の開催について

③ 令和3年度第1回評議員会 (定時) 開催について

審議結果：提案された3件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長より、定款第33条第4項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

(3) 令和3年度第1回評議員会 (定時)

開催日：令和3年6月18日(金)

開催場所：パレスホテル東京 (東京都千代田区丸の内1-1-1)

出席者：評議員10名(総数13名)

理事長

議案：第51回国際シンポジウムの開催延期および杉村隆先生追悼記念講演会の開催について

審議結果：提案された1件の議案につき、審議の結果、異議なく承認可決された。

報告事項：理事長より、令和2年度事業報告及び決算について報告が行われ、評議員全員から承認を得た。

(4) 令和3年度第2回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：令和3年度第2回評議員会（臨時）の開催について

（令和3年9月28日（火）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事9名全員から同意の意思表示を、また監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第2項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和3年10月6日（水）

(5) 令和3年度第3回理事会（臨時）

開催日：令和3年11月2日（火）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事7名（総数9名）・監事2名（総数2名）・顧問2名（総数4名）

議案：① 令和3年度事業計画の変更について

② 令和3年度収支予算の変更について

③ 令和4年度の主要事業について

④ 令和3年度第3回評議員会（臨時）の開催について

審議結果：提案された4件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長より、定款第33条第4項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

(6) 令和3年度第2回評議員会（臨時）

開催日：令和3年11月2日（火）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：評議員12名（総数13名）

理事長

議案：① 令和3年度事業計画の変更について

② 令和3年度収支予算の変更について

審議結果：提案された2件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。



(7) 令和3年度第2回学術委員会

開催日：令和3年12月2日(木)

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：学術委員10名（総数10名）

理事長

議案：① 令和3年度研究助成金受領候補者の審査、選考について

② 令和3年度学術賞候補者の審査、選考について

③ 令和4年度（第40回）国際講演会の実施について

④ 令和4年度国際シンポジウム助成について

審議結果：① 239名の申請者の内、第5章・附属明細書・表1に記載の43名が選考された。

② 10件10名の候補者の内、第5章・附属明細書・表2に記載の2名が選考された。

③ アメリカで新型コロナウイルスの感染が再拡大していることを受け、いつまでに講演会開催を決定するかどうかについては中签委員に一任する旨、議長より提案があり、全員了承した。

第1候補

Tyler Jacks 博士

マサチューセッツ工科大学コッホ統合がん研究所所長

令和2年（2020年）第14回AACR高松宮妃記念講演賞（アメリカ）

第2候補

Aviv Regev 博士

ジェネンテック社副社長（アメリカ）

第3候補

Joan Massagué 博士

メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター

スローン・ケタリング研究所所長

平成29年（2017年）第48回国際シンポジウム中原記念講演（アメリカ）

④ 助成対象を下記の学術総会で開催されるJCA（日本癌学会）－AACR（アメリカ癌学会）ジョイントシンポジウムとすることとなった。

シンポジウムを開催する母体となる学術総会

名称：第81回日本癌学会学術総会

テーマ：不屈の挑戦が切り拓く、がん克服への道

学術会長：村上善則 博士（東京大学医科学研究所教授）

日程：令和4年9月29日（木）－10月1日（土）

会場：パシフィコ横浜

(8) 令和3年度第4回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 令和3年度研究助成金受領者の決定について

② 令和3年度学術賞受賞者の決定について

③ 令和4年度（第40回）国際講演会の実施について

④ 令和4年度国際シンポジウム助成について

（令和3年12月8日（水）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事9名全員から同意の意思表示を、また監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第2項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和3年12月15日（水）

(9) 令和3年度第5回理事会（通常）

開催日：令和4年3月11日（金）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事6名（総数9名）・監事2名（総数2名）・顧問1名（総数4名）

議案：① 令和4年度事業計画について

② 令和4年度収支予算について

③ 令和4年度資金調達及び設備投資の見込みについて

④ 諸規程の新設及び変更について

⑤ 次期学術委員の選任について

⑥ 顧問の選任について

審議結果：提案された6件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

(10) 令和3年度第3回評議員会（臨時）

開催日：令和4年3月11日（金）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：評議員9名（総数13名）

理事長

議案：① 令和4年度事業計画について

② 令和4年度収支予算について

③ 令和4年度資金調達及び設備投資の見込みについて

審議結果：提案された3件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

## 2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| (1) 令和2年度事業報告等の提出  | 令和3年6月29日(火) |
| (2) 令和4年度事業計画書等の提出 | 令和4年3月29日(火) |

## 3. 内閣府からの連絡事項等

内閣府から公益法人宛には、不定期にメールにより情報連絡が行われる他、原則隔週水曜日に「内閣府 公益法人メールマガジン」が発行され、公益認定等委員会からの伝達事項、公益法人への依頼事項、公益法人の現況と運営へのアドバイス、テーマ別セミナーや相談会のお知らせ等が記載されている。

この情報連絡に関し、令和3年度に対応した事項はない。

## 第4章 受取寄附金に関する事項

当財団の公益目的事業は、経常収益を構成する基本財産運用益、特定資産運用益、受取寄附金、雑収益で運営されている。受取寄附金は、高松宮妃殿下が関係された様々な法人から毎年お届けいただく寄附金、妃殿下と世代を超えて何らかのご縁の続く多くの皆様からの継続的なご寄附、妃殿下の「がん撲滅」の悲願に賛同された日本中の皆様からのご寄附などである。例年、法人、個人の寄附金は合計100件を超え、経常収益の重要な位置を占める。

当事業年度に受け入れた寄附金は以下のとおりである。

- |         |      |             |
|---------|------|-------------|
| ・法人     | 35件  | 17,424,296円 |
| ・個人     | 69件  | 39,295,763円 |
| ・法人個人合計 | 104件 | 56,720,059円 |

第1章の概況に既述したとおり、当年度は、複数の個人の方からの遺贈(合計26,804千円)の件数が多かったことから寄附金合計は、当初予算の37,000千円を大きく上回った。

## 第5章 附属明細書

表1 令和3年度研究助成金受領者名簿

以下の受領者に対し、1件当たり200万円の助成金を贈呈した。

代表研究者氏名	所属・職	研究題目
池上 徹	東京慈恵会医科大学 外科学講座肝胆膵外科分野 教授	膵癌特異的ミトコンドリア代謝メカニズムの分子機序解明と革新的治療の開発
池田 和博	埼玉医科大学 医学部ゲノム応用医学 准教授	女性がん患者由来がん培養・移植系を活用した呼吸鎖超複合体のがん代謝における役割の解明とその応用
岩槻 政晃	熊本大学大学院 生命科学研究部消化器外科学 診療講師	胃癌におけるdysplasia-adenoma-adenocarcinoma sequenceの分子生物学的解明
上阪 直史	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 認知神経生物学分野 教授	神経伝達・グリア伝達依存的な脳腫瘍進展のメカニズム解明
榎本 篤	名古屋大学大学院 医学系研究科腫瘍病理学 教授	免疫チェックポイント阻害薬の効果増強法の開発研究
衣斐 寛倫	愛知県がんセンター研究所 がん標的治療 TR 分野 分野長	腫瘍周囲環境がKRAS阻害薬感受性に与える役割の解明と治療応用
遠藤 裕介	(公財)かずさDNA研究所 オミックス医科学研究室 室長	脂肪酸イノメタボリズムを標的とした生体にとって一石三鳥となる抗腫瘍戦略の構築
遠西 大輔	岡山大学病院 ゲノム医療総合推進センター 研究教授	空間マルチオミクス解析を用いた悪性リンパ腫の微小環境空間ネットワークの解明と新規免疫治療法の開発
岡本 康司	国立がん研究センター研究所 がん分化制御解析分野 分野長	空間的オミックス解析による卵巣明細胞がんの治療抵抗性領域の解明
越智 陽太郎	京都大学大学院 医学研究科腫瘍生物学 特定助教	オミクス解析による白血病における転写脆弱性の解明
梯 アンナ	大阪市立大学大学院 医学研究科分子病理学 講師	浸潤性膵管癌の早期発見や治療のための新規バイオマーカーおよび分子ターゲットの解明
片山 量平	(公財)がん研究会 がん化学療法センター 基礎研究部 部長	ゲノムワイドスクリーニングを用いたがん治療残存細胞の性状解析と新規治療標的の探索
加藤 浩貴	東北大学病院 血液内科 助教	ヘム合成酵素CPOXの阻害による鉄依存性細胞死の誘導で白血病を克服する
茅野 新	東海大学医学部附属病院 消化器外科 准教授	患者由来オルガノイドを用いた転移性大腸癌に対するMicrobiomeを活用した個別化癌薬物療法の開発

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
熊 谷 尚 悟	国立がん研究センター 先端医療開発センター 免疫トランスレーショナルリ サーチ分野 特任研究員	腫瘍局所における乳酸代謝を標的とした新規免疫療法の開発
小 沼 貴 晶	東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 造血病態制御学分野 准教授	テトラスパニン関連表面抗原を標的とした骨髄性白血病に対する免疫療法の開発
齋 藤 敦	広島大学大学院 医系科学研究科分子細胞情報学 牽引准教授	小胞体膜局在転写因子OASISを介したp53非依存的な細胞老化と癌化制御機構解明
指 田 吾 郎	熊本大学国際先端医学研究機構 白血病転写制御研究室 特別招聘教授	数的染色体異常による骨髄異形成症候群の発症機序の解析
柴 田 淳 史	群馬大学未来先端研究機構 内分泌代謝・シグナル研究部門 准教授	DNA損傷が惹起する腫瘍免疫賦活化機構の解明と新規治療戦略の開拓
榛 葉 繁 紀	日本大学 薬学部 教授	体内時計システムのかく乱による大腸がん発症機構の解明
鈴 木 拓	札幌医科大学 医学部分子生物学講座 教授	ヒストン修飾酵素DOT1L阻害による免疫応答の機序解明とがん治療への応用
関 根 圭 輔	国立がん研究センター研究所 がん細胞システム研究ユニット 独立ユニット長	ヒト患者組織および患者由来オルガノイドのマルチオミックス解析を用いた膵癌細胞社会の統合解析
高 橋 秀 和	大阪大学大学院 医学系研究科消化器外科学 助教（学部内講師）	アポトーシスを標的とした新規大腸癌革新的治療薬の実用化に向けた前臨床研究
武 田 はるな	国立がん研究センター研究所 分子遺伝学ユニット ユニット長	SBトランスポゾン挿入変異誘発を用いた大腸炎関連がん形成の解明
田 中 広 祐	国立がん研究センター 先端医療開発センター ゲノム TR 分野 研究員	ミトコンドリアDNAをターゲットとした免疫原性を高める新たな治療戦略
田 中 伸 之	慶應義塾大学 医学部泌尿器科学教室 専任講師	腎がんクローン進化と多様な腫瘍免疫浸潤の空間シングルセル解析
田 中 庸 介	国立がん研究センター研究所 細胞情報学分野 特任研究員	上皮間葉転換遺伝子活性化を伴う難治性消化器がんにおける転写制御理解に基づく治療法開発
寺 井 健 太	京都大学大学院 医学研究科病態生物医学 准教授	ヒト膵癌オルガノイドを用いた腫瘍微小環境構築機構の解明
富 樫 庸 介	岡山大学学術研究院 医歯薬学域腫瘍微小環境学 教授	抗腫瘍免疫応答における時空間的T細胞老化及び疲弊の解明

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
内 藤 幹 彦	東京大学大学院 薬学系研究科タンパク質分解 創薬研究室 特任教授	がん特異的融合タンパク質の分解
中 川 勇 人	三重大学大学院 医学系研究科消化器内科学 教授	脂質生合成経路を基軸とした肝外胆管癌発症機 序解明と新規治療薬の創出
中 西 祐 貴	京都大学 医学研究科地域医療システム 学講座 特定助教	がん幹細胞性と間質反応制御による新規大腸が ん免疫治療戦略の樹立
野 島 孝 之	九州大学生体防御医学研究所 大学院医学系学府医学専攻 腫瘍防御学分野 准教授	抗がん化合物で誘導される“未成熟”転写終結制 御機構とそれ由来長鎖非コードRNAの生理学的 機能解析
増 田 隆 明	九州大学病院別府病院 外科 診療准教授	新たながん治療標的『タンパク翻訳リプログラ ミング異常』の解明とリポジショニング創薬
松 本 知 訓	大阪大学微生物病研究所 遺伝子生物学分野 助教	倍数性変化と細胞老化脱出を標的とした、癌腫・ 薬剤横断的に薬剤耐性を抑制する新規治療の 開発
三 浦 恭 子	熊本大学大学院 生命科学研究部 老化・健康長寿学講座 准教授	最長寿齧歯類ハダカデバネズミの生体内におけ る発がん抑制機構の解明
三 吉 範 克	大阪大学大学院 医学系研究科消化器外科学 助教（学部内講師）	培養がん細胞を用いた腫瘍微小環境におけるが ん細胞と間質細胞の多次元解析
向 井 康 治 朗	東北大学大学院 生命科学研究科 細胞小器官疾患学分野 助教	腫瘍免疫療法への応用に向けたSTING経路の活 性制御機構の解明
武 藤 倫 弘	京都府立医科大学 分子標的予防医学 教授	家族性大腸腺腫症におけるがん予防効果判定血 液マーカーの検証
八 幡 崇	東海大学 医学部基盤診療学系 先端医療科学 教授	PAI-1パラドックスの解明による新規複合的がん 免疫療法の確立
山 田 忠 明	京都府立医科大学大学院 医学研究科呼吸器内科学 准教授	希少肺がんのAXLを介した治療抵抗性シグナル を標的とした診断・治療法の開発
山 本 恵 介	東京大学大学院 医学系研究科消化器内科学 助教	セリン生合成経路欠損臓がんを標的とした合成 致死治療法の開発
山 本 博 幸	聖マリアンナ医科大学大学院 バイオインフォマティクス学 教授	人工知能・新型ゲノムデータ駆動型アプローチ に基づく革新的胃癌統合医療の創成

(五十音順 敬称略)

表 2 令和 3 年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿

以下の受賞者に対し、1 件当たり 500 万円の賞金を贈呈した。

受賞者氏名	所属・職	研究業績
柴 田 龍 弘	東京大学医科学研究所 ゲノム医科学分野 教授 国立がん研究センター研究所 がんゲノミクス研究分野 分野長	消化器難治がんゲノム解析による診断・ 治療・予防への展開
畠 山 昌 則	東京大学医学系研究科 微生物学講座 教授	ピロリ菌がんタンパク質 CagA による 胃発がん分子機構の解明

(五十音順 敬称略)